

平成29年度入試【3年次編入学】

【日本語学・日本文学】

(法文学部 言語文化学科)

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は一ページである。解答用紙は二枚、下書き用紙は一枚である。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙、下書き用紙は持ち帰ること。

一次の和歌と詞書を読んで後の問いに答えよ。

寛平帝の御時、大御息所ときこえける御局に、大和に親ある人さぶらひけり。親いとかなしくして、なべての男はあはせじと思ひてさぶらはせけるに、御息所の御弟いとむむに言ひわたりたまふを、いかがありけむ、親いかが言はむと思へど、みるべき宿世にこそあらめ、若き人たのみがたくぞあるや」とぞ言ひける。年経るほどに、その時の大将の婿になりけり。親聞きて「さればよ」と思ひけり。女限りなくはづかしと思ふほどに、この男のもとより、女の親の家は五条わたりなるに、来て垣の紅葉にかく書きつけたり。

ひと住まずあれたる宿を来てみれば今ぞ木の葉は錦おりける

女いと心憂きものから、あはれにおほえければ

涙ぞ入時雨にそひてふるよきは紅葉の色も濃びぞまはされる

『伊勢集』による

問 傍線部A、Bをそれぞれ口語訳せよ。

二 「カエルがヘビに食べられた」と「太郎は次郎にプリンを食べられた」の文法的な違いを、対応する能動文を使って説明せよ。

三 次の漢詩は、内村鱸香（一八二一—一八八一。島根県出身。幕末明治の漢学者）作の「歳暮感懷」（一八九三年作）である。読んで以下の問いに答えよ。返り点、送り仮名はすべて省略した。「昏塾（こんてん）」は、水害に苦しめられること。

洪水破家今始修。凶書無恙在床頭。稻禾残害民昏塾。每聽慘情
悲淚流。

問一 この詩の形式を答えよ。

問二 韻字をすべて指摘せよ。

問三 承句の「凶書無恙在床頭」をわかりやすい日本語に訳せ。

問四 結句の「每聽慘情悲淚流」をひらがなだけで書き下せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

四 以下の問いに答えよ。

問一 和泉式部について知るところを述べよ。

問二 近世文学と出版との関係について、知るところを述べよ。

問三 次の文学史的事項の中から一つを選び、知るところを述べよ。

二葉亭四迷 小林秀雄 小説「たけくらべ」 小説「草枕」 小説「暗夜行路」